

九州支部だより 第23回九州支部主任者研修会 印象記

阿部 利明

紅葉も華やかになった秋の終わりの平成 29 年 11 月 17 日、九州支部主任者研修会が JR 小倉駅からほど近い北九州国際会議場で行われた。この研修会は、九州支部により、九州・沖縄地区を会場として、年 1 回行われており、昨年は宮崎市で開催された。今回の会場となった北九州国際会議場は、黄色やレンガ色のおもちゃの積木造りの様なユニークな建物である（写真 1）。交通の便の良い場所での開催のためか、参加者は九州各地から集まった。

開会は 13:00 で、まず初めに支部長の杉原氏から挨拶があった。今回は地域の特色を出したプログラム構成とするため、工業都市のイメージがある北九州市にちなんで、企業での放射線利用や管理についての講演を盛り込んだとのことであった。

最初に、原子力規制庁放射線規制部門の土居亮介氏から、「放射線障害防止法関係の最近の動向—法令改正の概要—」と題した講演が行われ（写真 2）、主に放射線障害予防規程（予防規程）に関するガイドラインについてお話があった。同氏は、元九州支部委員でもあり、地方会ならではのお話があるのではないかと、期待しながら聴講した。このなかで、予防規程を改正する際に、ガイドライン以外は「だめ」というわけではなく、法令に照らし合わせて適切なものであればよい。しかし、その場合には、きちんと説明できるようにと話されていた。また、業務改善活動には、マネジメント層を含むこと等を定めるようにとのことであった。予防規程の改正は、主任者にとっては頭の痛い問題だと思われるが、土居氏は講演の中で、ガイドラインはあくまで例示であると何度も説明されていたのが印象的であった。このことは、予防規程の作成に当たっては、主任者の裁量が広がったともいえ、腕の見せ所とも考えられる。

次の講演は、産業医科大学放射線科学教室の興梠



写真 1 会場の北九州国際会議場



写真 2 土居氏による講演

征典氏の「放射線医学の進歩と未来への展望—放射線科医 35 年の経験から—」と題したお話があり、医療における放射線の利用について、素人にも分かりやすく説明された。まず、画像診断と放射線科医の役割について、放射線科医は専門的な観点から読影レポートを書き、主治医とのダブルチェックを行うこと等の説明があった。このことは、診察を受ける側からすると、見落としの可能性が減り、大変ありがたいと感じた。また、コンピュータ支援診断 CAD や更には人工知能 AI 等も利用し、見落とし等の可能性を低減しているとのことのお話があった。更に、

CT 画像には造影剤が非常に重要であることや、ヘリカル CT やマルチスライス CT 等により、体内の 3 次元画像を得ているとの話もあった。治療に関しては、切らずに治すのが放射線科医であり、その例として IVR（画像診断をしながら、主にカテーテル操作等を利用した治療）等のお話があった。その他 MRI（磁気共鳴画像診断装置）を用いたパーキンソン病やうつ病の診断のお話もされた。これらの話は、病院を受診する者にとって、非常に興味深いものであった。

3 番目の講演は、TOTO(株)総合研究所分析技術部の青島利裕氏の「TOTO における X 線トモグラフィの活用とその可能性」と題したお話があった。まず初めに、創立 100 年の記念事業として建設した TOTO ミュージアムの紹介があったが、ミュージアムの外観は、今回の会場に負けず劣らずユニークなものであった。ところで、トモグラフィとは、断層写真術のことであるが、毎日使用しているトイレ等の衛生陶器の製造に、X 線がどのように利用されているのか興味津々で聴講した。材料開発には 3 次元で構造を見ることは大変重要であること、また、FIB-SEM（集束イオンビーム走査電子顕微鏡）や TEM（透過型電子顕微鏡）等も用いるが、木を見て森を見ずとならないよう、マイクロ CT 等で少し広い範囲を見ることも重要であると話されていた。我々が日々使用している衛生陶器の開発にも、放射線が使用されていることが分かり、少しうれしい気分になった。

最後の講演は、新日鐵住金(株)八幡製鉄所設備部システム制御技術室の八久保平氏による「製鐵所における放射線装置の使用・管理状況について」と題したお話があった。まず初めに、八幡製鉄所の紹介と鉄鋼製造プロセスのお話があり、その工程の様々な場所で放射線装置が使用されているとのことであった。X 線装置 60 台以上、RI 装備機器 40 台以上を製鐵所全体で所有しており、板厚測定、メッキ等付着量測定、結晶構造解析、レベル計や位置検出に使用しているとのことであった。また、これらの機器が停止することは、ラインが停止することとなるため、非常に重要な役目を放射線が担っているとの印象を受けた。放射線管理については、管理に万全を期すため、各部門に第 1 種放射線取扱主任者を配置し、その資格の確保に会社ぐるみで推進しているとのことであった。また、内部自主監査制度を設け、各部門間で管理状況を相互に評価しているとのことであり、いずれも、素晴らしいシステムであると感心させられた。

盛況の内に終了した研修会の後には、同国際会議場内のイタリアンレストランで情報交換会が開かれた。各事業所で放射線管理に携わる者同士、楽しく有意義で、しかも活発な意見交換が行われた。その後、更に議論を深めたい者は、小倉の街に吸い込まれて行ったことは言うまでもない。

(産業医科大学アイソトープ研究センター)

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

池本祐志（委員長）、安中博之、大石晃嗣*¹、片岡隆浩、柴田理尋*²、廣田昌大、藤淵俊王、宮本昌明*¹、吉田浩子*¹

* 1 3 月末まで

* 2 4 月から